

カレブ様

zxcqwe1234jp@yahoo.co.jp より

突然失礼します 今回は匿名にさせていただきます

あなた様のブログ読ませていただきました 大変よく調査されていてよかったですと思います ほかにも自分は良心の危機など いくつか読みました それでもものみの塔のエルサレムの滅んだ年が前607年の説は間違いだと思えます

ところで質問なのですが カール・オロフ・ジョンソンさんの 異邦人の時 再考の記述で

このダニエルの書の冒頭を見ると、「エホヤキムの王政三年」にネブカドネザルはエルサレムを攻めて、ダニエル自身を含む、ユダの要人の一部を捕虜としてバビロンに連れ帰ったことが書かれている。第二節を見ると、「ユダの王エホヤキム・・・を彼の手に渡された」とある。この表現は、聖書の他の部分を見てもわかるが(裁き人3:10; エレミヤ27:6, 7)、強制的に従属させられたことを意味する。なお、この年は実はエレミヤ書の「エホヤキムの第四年」と同じ年である。何故なら、ユダでは王の年数を数えるのに即位年を一として数えるのに対し、ダニエルが官吏として仕えていたバビロンでは即位年をゼロとして実際の在位年数を数える方法をとっていたからである。ユダの在位年数を使ったエレミヤと、バビロンの在位年数を使ったダニエルとの間に、一年の違いが出てくるのであるが、実際には同じ年を述べている。このように、ユダのバビロンに対する従属は、エホヤキムの在位期間の早い時期に始ったのだが、もちろん、ものみの塔協会の年代計算では、これはうまく当てはまらない。ものみの塔協会はこれを説明するために、「エホヤキムの王政の第三年」というダニエルの1:1の言葉を文字通り取らずに、「バビロンに仕える属国の王としてのエホヤキムのこの第三年のことであろうと思われる」としている(「聖書に対する洞察」第一巻410-411頁)。そしてこれはエホヤキムの王としての11年間の最後の年とする。これは、すなわちネブカドネザル王の第8年目(ユダ計算法)になる。しかしこの解釈はダニエルの2:1の記述と真っ向から矛盾している。ここでダニエルは、ネブカドネザル王の第二年目に王の夢の解釈をしているのである。もしダニエルがネブカドネザル王の8年目(あるいはバビロンの計算法では7年目)にバビロンに連れてこられたとするなら、どうして彼がネブカドネザル王の第二年目に夢の解釈ができるのだろうか。この点を何とか取り繕うために、ものみの塔は、ダニエルの2:1の「ネブカドネザルの王政第二年」をやはりその通りに解釈せず、エルサレムが破壊された年から第二年、実はネブカドネザルの王政代十九年をさしている、という無理な解釈を行っているのだ。(「聖書に対する洞察」第二巻135頁)

とありますが 上記の下線部のユダのバビロンに対する従属は、エホヤキムの在位期間の早い時期に始ったのだが、もちろん、ものみの塔協会の年代計算では、これはうまく当てはまらない。

の意味がわかりません

ものみの塔の言い分は 下記の洞察1-410にあるように ダニエル1.1-2でダニエルたちがバビロンに連れて行かれたのはエホヤキム王の第三年の出来事で ネブカドネザルがファラオネコを打ち破ったのはエホヤキム王の第四年だからありえない 実際にはバビロンに対する従属者としての3年間が始まったのは、その支配の第8年の終わりごろと書いてある と思うのですが またこのことと連動して ダニエルの2:1の「ネブカドネザルの王政第二年」をやはりその通りに解釈せず、エルサレムが破壊された年から第二年、実はネブカドネザルの王政代十九年をさしている、という無理な解釈を行っているのだ ということも生じています。

しかし上のオロフ・ジョンソンさんの記述ではダニ1.1とエレ46.2は序数と基数「かぞえ と まん」をつかっているから実際には同じ年だとおぼえていますので ものみの塔の言い分は間違いということになると思えます

それでこのまちがいは 単にものみの塔が ダニ1.1とエレ46.2の序数と基数をしらなかったのだから こう書いたのでしょうか それとも エルサレムの滅びを607年に合わせるために 知らないふりをして何か意図があつてこう

言っているのでしょうか わかるようでしたら教えてください

自分はものみの塔が主張するエルサレムの滅びが607年はいまさら変更が難しい1914年から7つの時の2520年を逆算して607年にしてそれを中心にしてそれぞれの聖書の記述の年代を当てはめていったものだと思いますが それならなおさら 聖書に逆らってまでエホヤキムの第三年にダニエルたちが連れて行かれたことやそれと連動してネブカドネザルの第二年に大きな像の夢のときあかしを第19年にした理由がわかりません そんなことをしたら ますます自分たちが歴史とも 聖書とも違うと攻撃されるのではないのでしょうか

うまく自分の言いたいことが言い表せずわかりにくい質問内容になかったかもしれませんが申し訳ありません お忙しいとは思いますがもしわかるようでしたらお教えてください

*** 洞-1 410-411ページ エホヤキム ***

エホヤキムの治世の第4年(西暦前625年)には、ネブカドネザルがシリア-パレスチナの覇権を巡る戦いでファラオ・ネコを撃ち破りました。その戦いは、エルサレムの北600^キ余の所にある、ユーフラテス河畔のカルケミシュで行なわれました。(エレ 46:1, 2) 同年、エレミヤはイスラエル、ユダ、および諸国民すべてに対して告げられたエホバの言葉を書記官バルクに口述し始め、ヨシヤの治世の第13年(当時、エホヤキムは6歳ぐらいだった)以降、伝えられるようになった音信を記録させました。それからほぼ1年後、太陰第9の月(キスレウ、11/12月)に、口述筆記させた音信を収めた巻き物がエホヤキム王の前で読まれました。エフディが三、四ページ分の欄を読むや、その部分は切り取られ、王の冬の家にあった火鉢の中の燃える火に投げ込まれました。こうして、その巻き物は一部分ずつ切り裂かれて、全部炎の中に投げられました。エホヤキムは、巻き物を焼かないようにという3人の君たちの嘆願を無視しました。王は特に、ユダがバビロン王の手によって荒廃させられることを指摘した預言的な言葉に異議を唱えました。これは、ネブカドネザルがまだエルサレムに攻めて来てはおらず、エホヤキムを従属者としてはいなかったことを示唆しています。—エレ 36:1-4, 21-29。

列王第二 24章1節の示すところによれば、ネブカドネザルがこのユダの王に圧力を加えたので、『エホヤキムは三年間彼の僕[または、従属者]となりました。ところが、彼[エホヤキム]は翻って、これ[ネブカドネザル]に背きました』。ダニエルがダニエル 1章1節で言及しているのは、バビロンに仕える属国の王としてのエホヤキムのこの第3年のことであろうと思われます。それはエホヤキムのユダに対する11年間の治世の第3年だったとは考えられません。当時、エホヤキムはバビロンではなく、エジプトのファラオ・ネコの従属者だったからです。ネブカドネザルは、ユダを支配したエホヤキムの第4年になって初めて、カルケミシュでの勝利によってシリア-パレスチナに対するエジプトの覇権を覆した(西暦前625年[ニサン以後であろうと思われる])のです。(エレ 46:2) エホヤキムは約11年間王座に就いた後、バビロンに背いたために失墜したのですから、バビロンに対する従属者としての3年間が始まったのは、その支配の第8年の終わりごろ、つまり西暦前620年の初頭であったに違いありません。